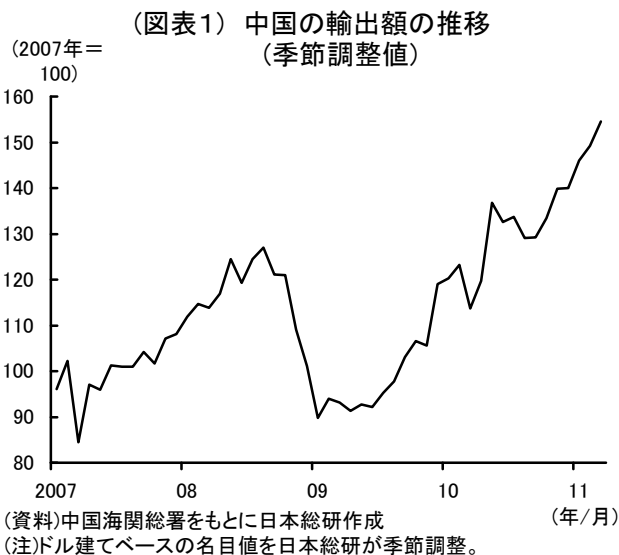


変わる中国の輸出構造 ～新興国向け、高付加価値製品が中心に～

- (1) 中国の輸出は堅調に拡大。輸出額は金融危機前を大きく上回る水準(図表1)。
- (2) 牽引役は新興国向け。新興国の高い経済成長を背景に、OECD非加盟国向け輸出額は2005年から2010年にかけて2.3倍に増加。その寄与度はOECD加盟国向けを上回る57.4%(図表2)。とりわけ、BRICS向けの拡大が顕著。
- (3) 新興国向け輸出の特徴は、工作機械や建設機械など産業機械のシェアが大きい点。2010年のブラジル向けに占める産業機械のシェアは全体の同23.2%を上回る28.0%(図表3)。
- (4) こうした動きは、中国の輸出産業が高付加価値化を進めていることを示唆。従来、中国の輸出は国内付加価値が低い先進国向け加工貿易が主。もともと、加工貿易のシェアは低下傾向(図表4)。代わって、部品の国内調達拡大、製造技術の高度化などを通じて高付加価値製品の競争力を高め、新興国市場での足場を急拡大。



(図表2) 中国の地域別輸出額の寄与度分解

	2005年 億ドル	2010年 億ドル	伸び率 %	寄与度 %
世界	7,623	15,784	107.1	107.1
OECD加盟国	4,320	8,106	87.7	49.7
OECD非加盟国	3,304	7,679	132.4	57.4
BRICS	308	1,058	243.5	9.8

(資料)中国海関総署をもとに日本総研作成

(図表3) 中国の品目別輸出割合 (2010年)

	ブラジル向け (%)	世界向け (%)
繊維・玩具類	14.1	21.0
電気機械	23.4	24.6
産業用機械	28.0	23.2
輸送機械	5.2	5.6
その他	29.3	25.6
全品目	100.0	100.0

(資料)中国海関統計をもとに日本総研作成

